

「県立高校の再編計画」に関する 県教育委員会事務局の報告について(声明)

本日、定例教育委員会で県教委事務局は「県立高校の再編計画」に関する報告を行いました。内容は次の通りです。

再編計画は 2012(平成 24)年の夏休み前までに策定する。策定に当たっては、彦根・長浜両市からの提案も入れて決めていく。定時制・総合単位制や学科再編の中身は引き続き検討する。再編のうち、統合部分(長浜北高と長浜高の統合、彦根西高と彦根翔陽高の統合、信楽高の甲南高校への統合、瀬田高を瀬田工業高に吸収)は、実施時期を予定より 1 年遅らせて 2015(平成 27)年度にする。他の部分は予定通り実施の方向。特別支援学校の大規模化対策(分教室、高等養護を含む)の計画は今年度中に策定する。

私たちは、この報告を、到底認めるわけにはいきません。

報告は、まず地域住民と関係市町の思いをないがしろにしています。7月11日に、再編計画原案が発表されて以来、長浜でも彦根でも信楽でも、住民の思いを受けて、議会も議論を尽くし「地域の学校を存続させる」合意が出来あがっていきました。再編案の白紙撤回を求める署名は、瞬く間に6万筆を超えました。道理ある住民の意見は、県教委の統廃合の根拠を崩し、県教委はまともな説明が出来ずに、保護者住民の疑問は深まるだけでした。県には、この住民の深い思いを受け止める姿勢が見られません。

報告は、さらに県議会をもないがしろにしています。10月12日、県議会は「県立高校の再編に関する決議」を全会一致で採択しました。この決議は「県民や市町の理解を得ることなく事を進めれば子どもと地域の将来に禍根を残す。慎重な検討と生徒や県民への説明、理解を十二分に得よう...今年度内の計画策定という方針に拘泥することなく、少なくとも今後1年以上の時間をかけ...」と、時間をかけた慎重な検討を求めています。県教委事務局は「彦根市や長浜市からの提案も受けて検討する」としていますが、「長浜北高、彦根西高の存続」が提案されても、受け入れるのか極めて疑わしいものです。「少なくとも今後1年以上の時間をかけ」る気は全くありません。県教委は「大幅な統合再編」の方針を撤回していません。

今回の報告で、県教委事務局は、計画を一部延長したのは「新校の具体的なイメージと後輩がいなくなる事への不安に対する支援が示せなかった」からだとしました。これに対して、委員たちからは「その認識でいいのか、深い分析が必要だ。再編は必要だという県民合意が出来ていなければ、夏休み前の策定は無理ではないか。策定期間だけを自己目的化しないように」「県民のみなさんの意見を聞く中で県教育委員会として反省すべき事があった」との意見が出ました。ここにも、県教委事務局の姿勢が、いかに地域住民の思いとかけ離れ、また教育委員の思いとも食い違っているかが示されています。

今回の報告は、地域住民の思いを受け止めるものではなく、地域からまた新しいとりくみが始まるにちがいありません。11月29日から始まる県議会でも、こうした県のやり方への疑問や意見が噴き出すにちがいありません。

私たちは、滋賀県の隅々に広がりつつある「地域と学校を大事にする」県民の流れと合流し、統廃合計画案の白紙撤回と根本からの再検討をもとめて、運動を強めるものです。

2011年 11月9日

県立高校の統廃合を考える会